

自由が丘産能短期大学における入学前教育プログラムの開発

Development of Pre-entrance Courses at JIYUGAOKA SANNO College

豊 田 雄 彦

Yuhiko Toyoda

風 戸 修 子

Shuko Kazato

中 村 知 子

Tomoko Nakamura

藤 原 由 美

Yumi Fujihara

小 野 洋 子

Yoko Ono

菅 井 郁

Kaoru Sugai

三 浦 智恵子

Chieko Miura

抄 録 入学制度の多様化による進路決定時期の早期化と学生の質的变化により、入学前教育と初年次教育に対する大学の関心が高まっている。本学においても短期大学という正に短い教育期間で効果的に学生の質保証を行うためには、この教育の入口の役割は大きい。本学では2001年度入学生より入学前教育が実施されてきたが、円滑に課程教育に導入するために従来からあるプログラムを見直し、入学前教育と初年次教育との関連性を強化させることとした。

プログラムの開発にあたってはアカデミック・スキルの基本となる、書く、話す、パソコンに焦点をあて、本学の初年次教育といえる「学習の基礎」科目群と連携がとれるようにした。またプログラムの実施にあたっては在学生、卒業生による指導、ビデオ教材、WBT（Webによるテスト）など新しい試みを取り入れた。

その結果、学生によるアンケート調査ではすべての質問項目で肯定的な回答が多数を占めた。教員によるアンケートにおいてもすべての質問項目で肯定的な回答を得ることができ、大学における学習の意識付けという面では効果があったと考える。今後はリメディアル教育としての役割と大学への導入教育としての役割が混在している現在のプログラムを整理し、より目的を明確化することで、より教育の質保証に資するプログラムに改善していくことが課題である。

キーワード 入学前教育、導入教育、初年次教育、レポートライティング、パソコンリテラシー

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 入学前教育と初年次教育の動向 <ol style="list-style-type: none"> 2. 1 入学前教育の実施状況 2. 2 初年次教育の定義と本学の取り組み 2. 3 他学の初年次教育の実施状況 2. 4 アメリカにおける初年次教育 3. 入学前教育の枠組み | <ol style="list-style-type: none"> 4. 新しい試み 5. 入学前教育と本学の導入教育の連携 6. 入学前教育の効果測定 <ol style="list-style-type: none"> 6. 1 受講生のアンケート結果 6. 2 教員のアンケート結果 6. 3 卒業生の話を聞いての感想 7. おわりに |
|--|---|

1. はじめに

少子化にともなう大学の変革の動きは激しさを増している。そのひとつの表れに入試制度の多様化がある。各大学ともAO入試や推薦入試など従来の学力試験とは違う枠組みで受験生を確保しようとしている。その結果、早期に進路を決定する生徒が増えている。

早期に進路が決定してしまうと学習のモチベーションの維持が難しい。これは高校の教員からもよく指摘される場所である。またAO入試などの内容によっては入学後に必要な基礎学力が適切に把握されないケースもあり、そうしたことも相まって、大学入学後の学習、特に初年次教育を円滑に行うための準備として入学前教育が広く実施されることとなった。

このような背景の中で本学においても入学前教育のプログラムを見直すこととし、2009年度入学生を対象としたプログラムを2008年度に開発した。その実施結果をもとに2010年度入学生に対するプログラムの改善を行った。以下にその実施状況について報告する。

2. 入学前教育と初年次教育の動向

2. 1 入学前教育の実施状況

他学における入学前教育の実施状況は少し古い調査になるが、2005年ベネッセの調べによると私立大学では74%が実施しており、

AOによる入学者が対象となっている。また内容としては基礎学力（23.7%）、あるいは専門への導入として英語、数学、化学などの高校の学習（30.1%）を実施しているものが多い。

2007年度のライセンスアカデミー進路情報研究センター調査によれば、入学前教育で実施している課題として63.5%が「小論文・レポートの提出」、 「問題集の提出」 32.4%となっている。他に模擬授業などのスクーリング（28.2%）や、インターネット（21.2%）を活用したものが行われている。

次に東京都内のビジネス系短期大学である本学における入学前教育の実施状況を述べる。入学前教育実施の経緯を時系列にまとめると表1のとおりとなる。

本学においては東京、神奈川、千葉、埼玉といった近傍から通学する学生が圧倒的であるため、通学を中心としたスクーリングが入学前教育の中心となっていることに特徴がある。ただし地方在住の学生も少数ながらいるため、また日程があわない学生のために別日程を設けて受講の機会を確保している。

2001年度入学生から2008年度入学生までパソコン操作を中心とした教育が行われてきたが、次の2点の理由により、プログラムを見直すこととなった。

・PCの普及および高校において教科「情報」

表1 本学における入学前教育の実施状況

2001 年度入学生	パソコン基礎授業実施（パソコン基礎演習Ⅰとして単位認定）
2003 年度入学生	日本語（文章）表現レポート実施
2007 年度入学生	パソコン基礎授業を非単位化（オリエンテーションの一環）
2009 年度入学生	「学習と表現」科目に再編

が導入されたことによりPC操作自体は一定の水準が得られるようになった。

・本学の特徴的な学習文化にいち早く馴染むことで入学後の教育効果を高めることができるのではないかという仮説を実証する。

2. 2 初年次教育の定義と本学の取り組み

大学の大衆化とあいまって初年次教育の重要性が増してきている。大学での教育に円滑に移行するためにさまざまな試みがすでに各大学でなされているが、短期大学という限られた年限での教育では、より一層、大学への円滑な導入が望まれる。初年次教育とは「高校（もしくは他大学）からの円滑な移行を図り、学習および人格的な成長に向けて大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させるべく、主に大学新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」と定義される。

“成功”とはUpcraft, Gardnerによれば

- (1) 学問的・知的能力の発達

- (2) 人間関係の確立とその維持

- (3) アイデンティティの発達

- (4) キャリアと人生設計の決定

- (5) 肉体的・心理的健康の保持

- (6) 人生観の確立

の6項目が挙げられている。

初年次教育とは字義通りに解釈すれば初年次つまり1年生を対象として行われる教育であるが、本学のような短大の場合、初年次すべてをこのような導入教育に費やすのは現実的ではない。本学では以下の表2に示す教養科目・学習の基礎科目群が初年次教育に該当すると考えられる。

2. 3 他学の初年次教育の実施状況

文部科学省の調査によれば、全国で初年次教育を実施している大学は710校中501校(70.5%)となっている。設置別の数は図1に示すとおりである。

実施内容は濱名、川嶋の分類によれば、表

表2 教養科目・学習の基礎	
学習と表現	現代を生きる人間
チーム学習へのステップ	文章表現
フィールド・ワーク	プレゼンテーション
学びのサポート I	情報の活用と倫理

図1 初年次教育を実施している大学⁽³⁾

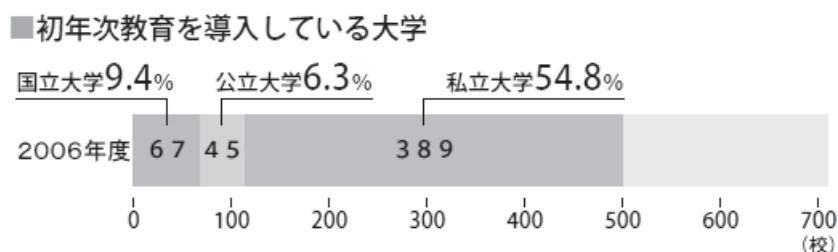


表3 初年次教育のプログラム

初年次教育の分類	本学での取り組み
1.授業以外のプログラム	
1-a.オリエンテーション、ガイダンス	入学時オリエンテーション
1-b.合宿、オリエンテーション・キャンプ	ホスピタリティオリエンテーション
1-c.チュートリアルやアドバイザーなどの担任制度	アカデミック・アドバイザー制度
1-d.入学前の指導・課題	入学前教育
1-e.大学・学部主催の講習会	—
2.授業科目	
2-a.補習教育型	数的理解の基礎
2-b.スキル・方法論型	文章表現・プレゼンテーション
2-c.情報リテラシー型	情報の活用と倫理
2-d.ゼミナール型	—
2-e.オリエンテーション型	就業とキャリア
2-f.基礎・概論型	各コース専門科目の導入科目

3左「初年次教育の分類」に列挙するとおりである。本学においても同様の取り組みを行っており、同じく表3右「本学での取り組み」に対応するプログラムに記す。ただし1-b.合宿、オリエンテーション・キャンプについては合宿ではなく、日帰りのプログラムとなっている。

2. 4 アメリカにおける初年次教育

おなじく濱名、川嶋によればアメリカにおける初年次教育の実践を列挙すると表4のとおりである。日本での取り組みに比較して、多くのプログラムが実施されている。ディベロップメンタル教育やサプリメント・インストラクションなど個別的な対応が多い点も特徴である。本学においては、表3ですでに

挙げたものを除けば、2-b.ディベロップメンタル教育として「レポートの書き方再学習」、2-f.ラーニング・コミュニティとして「学びのサポートⅠ・Ⅱ・Ⅲ」科目内におけるピア・サポート活動、2-g.サービス・ラーニングとして「サービス・ラーニング」科目の開設およびサンノー・スチューデント・スタッフ（SSS）活動、3-a.早期警告システムとして、欠席回数の多い学生への警告などの実施を行っている。

3. 入学前教育の枠組み

表3、表4で示した取り組みをすべて行うには本学のような小規模な短大では現実的ではないし、米国での実施例を文化の違う日本に持ち込んでも効果的とは限らない。現実的な

表4 アメリカにおける最近の実践

1. 新入生のための入学前プログラム
 - 1-a. 新入生オリエンテーションプログラム
 - 1-b. 保護者・家族向けオリエンテーションプログラム
 - 1-c. 夏季ブリッジ・プログラム
 - 1-d. サマー・リーディング・プログラム
2. カリキュラムおよび教員に関する初年次の試み
 - 2-a. アカデミック・アドバイジング
 - 2-b. ディベロップメンタル教育（ハイリスクな学生への対応）
 - 2-c. 遠隔教育とオンライン初年次コース
 - 2-d. ファカルティ・ディベロップメント
 - 2-e. フレッシュマン・セミナー
 - 2-f. ラーニング・コミュニティ
 - 2-g. サービス・ラーニング
 - 2-h. サプリメンタル・インストラクション（ハイリスクなコースへの対応）
3. 初年次生に役立つ構造・サービス・活動
 - 3-a. 早期警告システム
 - 3-b. 運動部、「グreek・ライフ（学生友愛団体）」、寮生活等の初年次生の活動
 - 3-c. 組織的対策、出席管理、中間報告
 - 3-d. リビング・ラーニング・コミュニティ

制約とコスト・効果のトレードオフを考慮し、入学前教育のプログラム、教材検討においては、より一層の教育的効果を得るため、昨年度のふりかえりを反映して次のような方法により行うこととした。

- 1) 初年次教育についての先行研究を調査し、本学の導入教育に適合するか検討する。
- 2) 「課題実践研究」科目と連動し、在学生の声を取り入れたプログラムとする。
- 3) ICTを活用し、インストラクションしやすく効果的な学習ができるよう配慮する。
- 4) 本学の学習の基礎となる以下の項目についてプログラムを開発する。

- ① 本学の特徴的な教育であるグループワークへの円滑な導入
- ② コミュニケーション能力、特にあいさつや話し方、マナーについて
- ③ PCリテラシー基礎能力
- ④ 文書表現能力、特にパラグラフ・ライティングについて
- ⑤ 発想力、特にシンキングマップの書き方について
- 5) ティーチングアシスタントを活用し、実社会で必要な能力と本学での学習を意識づける。

2007年度入学生からは入学前教育は単位認

定の対象となっていなかったが、2009年度入学生より必修授業として単位化することとした。

入学前教育においては当初、本学の特徴的な授業を実施するという考えで授業が設計され、科目名も「ビジネス表現」で検討されていたが、高校までの教育から本学の学習にスムーズに移行することを主眼に変更され、科目名も「学習と表現」と変更された。そのためプログラムの一部に当初の検討の名残を残している。従来行われていた「パソコン基礎」、「文章表現」プログラムをベースに入学前プログラムを再編成した。開発したプログラムの概要は表5のとおりである。

入学決定後、できる限り早期に教育を行うこととし、2009年度のAO入学制度による入学者、指定校推薦入試による入学者に関しては11月29日、12月13日、12月14日（入学コースにより指定）からA日程を開始した。一般入試や遠方からの入学者に関しては入学日にできるかぎり近い3月24日よりB日程を開始した。A日程を欠席したものはB日程の受講も可とした。入学後には1日間集中授業を实

施し、それらの欠席者には別途フォロー授業を実施した。

初年次教育との連動も考慮し、入学前教育で課した文書作成の課題を「文章表現」の授業で活用する、「情報の活用と倫理」にタッチタイピングの練習を引き継ぐなどした。また「学習と表現」の試験レポートが十分に書けない学生については再学習プログラム「レポートの書き方」を実施し、前学期のレポート作成に支障がでないように配慮した(図2)。

4. 新しい試み

「学習と表現」では以下のような新しい試みを実施した。

①在学生による指導

在学生が指導にあたることにより、本学の学習文化を身近な存在から直接伝えることができる。(授業開始時の挨拶／グループワーク／ファイリング)

②在学生によるビデオ教材の作成

ビデオ教材により、実習内容をイメージしやすくした。学生による指導だと内容にバラツキがでる恐れがあるが、統一したビデオ教

表5 「学習と表現」プログラム

第1日目「コミュニケーションの基礎」プログラム 課題実践担当クラスによる実施	丁寧な話し方、尋ね方をテーマとして、グループ学習の基礎を学ぶ。
第2日目「レポートライティングの基礎」プログラム アカデミック・アドバイザーによる実施	わかりやすい文章を書くためのパラグラフ・ライティングという書き方を学習する。ビジネスの世界での活用はもちろん、本学でのレポート課題をこなすための基礎となることを意図している。
第3日目「パソコン操作の基礎」プログラム 教科担当による実施	パソコンを操作するための基本を学ぶ。特に基本ソフト(Windows)の操作、タッチタイピング(キーボードを見ないで打つ方法)を学習する。
入学後集中授業「本学の学びと就業／パソコン基礎」プログラム 教科担当、TAによる実施	卒業生TAによる講演を参考に、本学の学びと実務の関連を考える。 学内でのパソコンの使用環境について知識を得る。

図2 入学前教育の枠組み

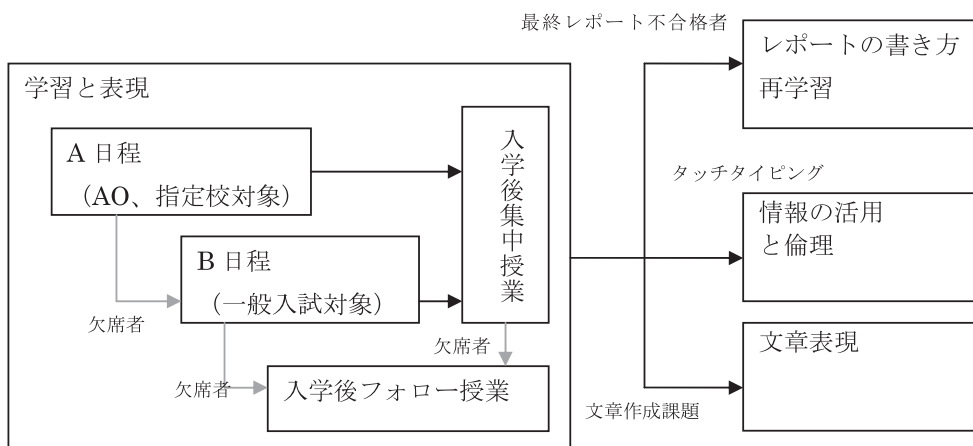


図3 ビデオ教材（グループワークの開始 ― 机の並べ方）



材を見せることにより標準化した。(図3)

③WBT（Web Based Testing）の採用

「学習と表現」のレポート課題として、電

子掲示板を用いて課題を案内し、メールでおくられたリンクを開くことによりWeb上の課題を実施するようにした。掲示板の閲覧、メールの受信などのパソコンの基本的操作につ

図4 WBT画面

「学習と表現」Webレポート課題

学生番号を入力してください。(必須)

氏名を入力してください。(必須)

以下の課題の答えを該当の欄に入力してください。

次回の授業にパソコンを持ってくる必要があるか、丁寧にたずねてください。

1号館2階のトイレが故障したので、3階のトイレを使うように丁寧な言葉で指示してください。

コミュニケーションを行う上で挨拶が重要な理由を簡単に述べてください。

相手にわかりやすく伝えるために、あなたがもっとも心がけていることを挙げてください。

以下の質問に答えてください。

あなたは入学前学習をとおして丁寧な話し方を心がけようになりましたか？

- ☐ そう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ ややそう思わない
- ☐ 思わない

あなたは入学前学習をとおしてわかりやすい文章を書こうと心がけるようになりましたか？

- ☐ そう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ ややそう思わない
- ☐ 思わない

ページが表示されました

インターネット | 保護モード: 有効

100%

いて確認ができた。(図4)

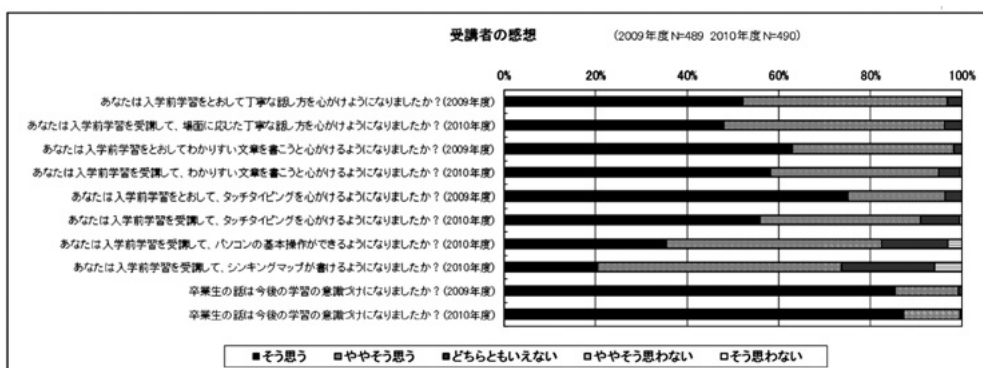
5. 入学前教育と本学の導入教育の連携

一般に入学前教育はAO入試などにより早期に入学が決まった学生に対して、基礎学力

表6 入学前教育と初年次教育の連携

		教養科目 学習の基礎			
		学びのサポートⅠ	チーム学習へのステップ	文章表現	情報の活用と倫理
入学前教育	コミュニケーションの基礎	グループワークの基本			
	レポートライティングの基礎			パラグラフ・ライティング	
	パソコン操作の基礎				タッチタイプ Windows の操作
	本学の学びと就業	目標設定			

図5 「学習と表現」受講者の感想



を保証するためのリメディアル教育のひとつと考えることができる。本学における入学前学習は「学習と表現」シラバス（資料1）に示すとおり、入学後の学習への導入がスムーズにいくためのプログラム構成となっている。一部リメディアル教育の要素もあるが、むしろ導入教育の一部であると考えることができる。

入学前教育と本学の導入教育の関連を表6に示す。

「プレゼンテーション」、「現代を生きる人間」など明示的に関連を示していない科目もあるが、レポートライティングなどは、体験学習の多い本学の教育においては共通で必要とされるスキルであり、そういった意味では入学前教育「学習と表現」プログラムはさま

ざまな科目の基礎となっているといえることができる。

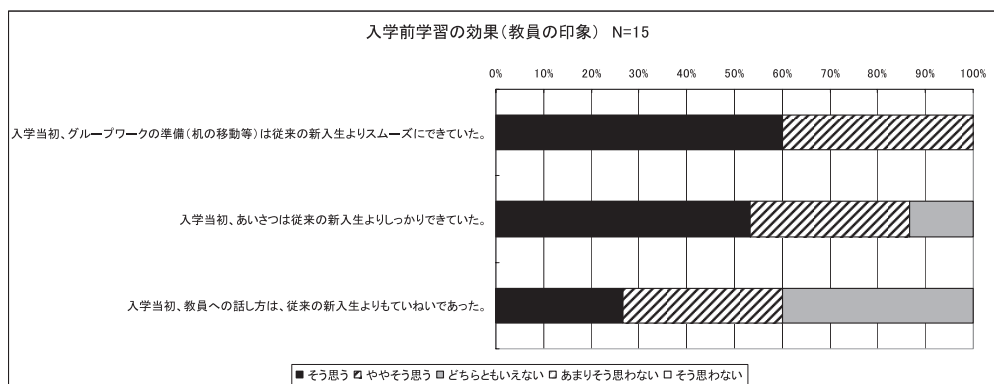
6. 入学前教育の効果測定

6.1 受講生のアンケート結果

授業実施後、Webによるアンケートを実施し、授業後の学生の印象を把握した。アンケートは記名式によるものである。集計結果は図5に示すとおりである。

比較的肯定的な回答が多いが、シンキングマップに関しては「そう思う」の比率が20.4%と少なくなっているのが目立つ。シンキングマップはレポートライティングの基礎で2つの課題があっただけなので、習熟するには練習量が足りないためと考えられる。そもそもこの時間内でシンキングマップを書け

図6 入学前教育の効果（教員の印象）



るようにすること自体が達成困難な目標であると考えられるので、これは学習の目的をシンキングマップという手法の紹介程度にとどめておくべきであろう。卒業生の話は参考になったという回答が2009年度、2010年度ともに85%超と多い。卒業生の話は「大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させる」第1歩になっていると考えられる。

6. 2 教員のアンケート結果

教員からの印象では「グループワークの準備」、「あいさつ」といった項目で肯定的な結果が多かった。「丁寧な話し方」についてはどちらともいえないが半数を占め、短期的な教育で実現することが難しい課題であることを示している（図6参照）。

6. 3 卒業生の話聞いての感想

「卒業生の話聞いた感想を150文字程度で述べてください」という設問に対し、表7に示すような語が多く用いられた。社会、就職、仕事、資格といった社会とのつながりを表す語と産能、授業、コミュニケーション、ビジネスマナーといった学校での体験を結び

つける記述が多いと考えられる。

感想から検出されたキーワード（名詞）に対して対応分析を行い、クラスター化すると、表8に示すとおり概ね3つの記述内容に分類されることが判明した。クラスター1は全体の44.3%で資格、活動、体験、就活、積極的、課外、充実、就職、挑戦、機会など先輩の活動姿勢や自分自身の今後の姿勢を示した語が多い。クラスター2は16.1%で先輩方、質疑応答、丁寧、お話、説明、感動、具体的、内容、参考、パワーポイント、態度、話し方など卒業生のプレゼンテーションそのものに感銘を受けたとことを示す語が並んでいる。クラスター3は31.6%でコミュニケーション能力、挨拶、グループワーク、仲間、社会、パソコン、ビジネスマナー、あいさつ、ビジネス、メモ、円滑、授業など本学で役立ったあるいは学ぶべき能力を記述しているものと考えられる。いずれのクラスターにしても卒業生の話から動機付けされている様子が伺える。

7. おわりに

本学での教育にいち早く適応させることを

表7 「卒業生の話聞いた感想を150文字程度で述べてください」の頻出語一覧

順位	構成要素	サンプル度数	出現比率
1	産能	275	56.1%
2	話	250	51.0%
3	自分	218	44.5%
4	卒業生	215	43.9%
5	授業	211	43.1%
6	社会	209	42.7%
7	私	206	42.0%
8	就職	180	36.7%
9	仕事	147	30.0%
10	先輩	139	28.4%
11	今	123	25.1%
12	役	120	24.5%
13	大切	108	22.0%
14	活動	107	21.8%
15	資格	101	20.6%
16	お話	92	18.8%
17	大変	90	18.4%
18	たくさん	86	17.6%
19	生活	86	17.6%
20	実際	76	15.5%
21	先輩方	73	14.9%
22	勉強	72	14.7%
23	参考	68	13.9%
24	コミュニケーション	67	13.7%
25	会社	65	13.3%
26	必要	65	13.3%
27	卒業	64	13.1%
28	事	62	12.7%
29	方	61	12.4%
30	人	60	12.2%
31	将来	57	11.6%
32	ビジネスマナー	56	11.4%
33	内容	55	11.2%
34	短大	54	11.0%
35	積極的	53	10.8%
36	社会人	52	10.6%
37	能力	52	10.6%
38	中	49	10.0%

表8 「卒業生の話聞いた感想を150文字程度で述べてください」のクラスター化

クラスター	クラスター1	クラスター2	クラスター3	その他
サンプル数	217	79	155	39
比率	44.3%	16.1%	31.6%	8.0%
上位1	資格	先輩方	コミュニケーション	
上位2	活動	応答	能力	
上位3	先	質疑	挨拶	
上位4	体験	丁寧	必要	
上位5	就活	お話	大切	
上位6	自分	説明	グループワーク	
上位7	積極的	感動	仲間	
上位8	何	是非	でて	
上位9	課外	将来	社会	
上位10	今	女性	パソコン	
上位11	短大	具体的	ビジネスマナー	
上位12	充実	内容	重要	
上位13	就職	参考	基本的	
上位14	挑戦	パワーポイント	短期	
上位15	無駄	重要性	大学	
上位16	全て	学ぼうと	特	
上位17	自信	希望	人間	
上位18	学生	給料	あいさつ	
上位19	為	重視	関係	
上位20	いろんな	新鮮	ビジネス	
上位21	たくさん	判断	メモ	
上位22	まだまだ	仕方	上	
上位23	機会	きっかけ	円滑	
上位24	生活	態度	授業	
上位25	入学	以上	大事	
上位26	実際	話し方	グループ	
上位27	事	本当	習慣	
上位28	すごく	職	人	
上位29	話	即	普段	
上位30	リアル	楽しさ	自由が丘産能	

企図して入学前教育プログラムを開発したが、その役割を整理すると、リメディアル的な役割をもつ部分と本学の学習の動機づけを図る部分に分けることができる。学生の多様

化を考えた場合に入学前にレベル合わせができることは望ましいが、入学前教育という限られた時間の中だけで、その目的を達成することは現実問題として難しい。またすでにそ

うした能力が備わっている受講生にとっては無駄な時間となってしまう。そのため入学後のリメディアル教育と結びつけるシステムを開発する必要がある。リメディアル教育と動機づけのプログラムを混在させるのではなく、独立して実施したほうが、学生にとっても学習の意図を明確にとらえることができるかもしれない。

また実施後のふりかえりにより、次の点も明確となった。

- ①コミュニケーションの基礎については、「友達づくり」に主眼を置くことが望まれる。「大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させる」ために、まず学校に来ることが重要である。その誘引となるのはやはり同級生の友人の存在である。本学においては、まだ問題となった例は少ないが、社会一般の動向を見ていると早めの対策が必要である。
- ②レポートライティングの基礎では、入学後の文章表現の授業に比べ、課題の内容が難しい。また高校の紹介をするなど自己開示を必要とするテーマは負担が大きい受講者もいると考えられる。記述するテーマについては工夫が必要である。
- ③「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」というリテラシーのうち、「読む」という行為に慣れていない新生が多い。1000文字程度の文章を要約させるなど「読む」訓練をプログラム化する必要がある。

謝辞

本研究は2008年度、2009年度 研究助成によって行われたものである。入学前教育プログラムの開発に携わった関係者だけでなく、運営に協力していただいた教職員にも改めて

感謝したい。

参考文献

- つなぐ高校・大学 入学前教育は効果を上げ
大学を評価する要因になっているか、
ベネッセ, http://benesse.jp/berd/center/open/dai/between/2006/07/03/tunagu_koudai_01.html (参照 2011-1-5)
- ～早期合格者への入学前教育に関する意識調査レポート～ 入学前教育 意欲低下か
学力補強か、ライセンスアカデミー進路
情報研究センター, http://licenseacademy.jp/public/pdf/nr_070510.pdf (参照 2011-1-5)
- M.Lee Upcraft, John Gardner and Associates.
The Freshman Year Experience. 1989
- 大学における教育内容等の改革状況について
(2008年度版) http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/06/08061617.htm
(参照 2011-1-5)
- 濱名篤, 川嶋太津夫 “初年次教育 歴史・理論・実践と世界の動向” 丸善, 2007, p72-75, p25-37.
- 濱名篤 一年次教育の社会的背景と特徴－アメリカにおける学業継続率と動機づけ－
『一年次教育と学習支援』関西国際大学
高等教育研究所研究叢書No.5, 2003.